

一般質問

6月定例会では、31人の議員が一般質問を行いました。質問の持ち時間は答弁を含めて1人60分です。

ここでは紙面の都合上、1人1項目を選び質問・答弁を要約し、ジャンルごとにまとめて掲載しました。

<会派の略称>

社民・市民＝社民・市民ネット
新生・市民＝新生会・市民の風



放射線量測定の様子

放射線対策

給食食材の放射線からの安全確保

学校給食については、内部被ばくの問題もあり多くの市民が非常に心配している。市はどのように安全な

子どもの安全 どう守る 最新情報確認し工夫に努める

かつまた大議員(社民・市民)

食材を確保し、子どもを守っていくのか。特に、牛乳や主食の米に関して、どのように対応していくのか。

制限の有無等の情報を確認し、より安全性の高い食材の確保に努めている。牛乳は、県の調査から、安全性が確保されていると認識している。今後も子どもの健康を最優先とした適切で迅速な対応を図れるよう、国や県の指針を踏まえ、最新の情報を確認しつつ、できる限り工夫していきたい。

放射線量の公表

福島第一原発事故で深刻な状況が続く、市川市でも平常時より高い放射線量が計測されている。放射線に

内部被ばくが心配 平常値まで継続を 今後も測定と結果の公表を続けたい

谷藤利子議員(日本共産党)

関する情報の公表、周知を徹底すべきと考えるがどうか。また、平常値に戻るまでは、測定結果や安全対策の公表、周知を継続すべきである。市の考えを問う。

答 現在、市川市では定点測定6地点及び小中学校等で、大気中の空間放射線量を測定、公表している。市民への正しい情報の提供は大変重要であり、広報紙の特集号なども検討したい。今後も、国、県の動向を注視しつつ、引き続き測定し、結果を公表していきたいと考えている。

放射線の健康被害

福島第一原発事故による放射線の健康被害が心配されるが、放射性物質のセシウムは、コンクリートや粘

小中学校の水泳指導見送るべき 実施上の配慮事項の徹底で可能

湯浅止子議員(社民・市民)

土と親和性が高く残留しやすい。今回、小中学校のプール水の放射性物質検査を行い検出されなかったこと、水泳指導を行うと聞く。子どもの命を守るため、慎重

にも慎重を重ね水泳指導は見送るべきではないか。 答 水泳指導に当たっては、水質検査の実施や随時の注水、プールサイドでの肌の露出の制限、授業への参加に対する児童生徒の意向を尊重する等、実施上の配慮事項を徹底することで、適切な水泳場の確保ができるものと考えている。

学校などでの放射能対策

家庭の不安にどう対応 保護者からの要望には柔軟に

戸村節子議員(公明党)

福島第一原発事故による放射能が及ぼす、外遊び、給食、プール等への影響について心配している児童生徒

対応していくのか。 答 児童生徒には、手洗いやうがい、風の強い日の屋外活動を控える等の生活指導を行っている。給食は安心・安全な食材の確保に努めると共に弁当の持参も認め、プールではフッシュガード等の着用を認めるなど、保護者からの要望には柔軟に対応していきたい。

災害対策

大和田・稲荷木地区の街づくり

大和田・稲荷木地区は、自動車専用道路に国道298号を併設した東京外郭環

国道298号で分断 災害時の対応は 本体道路構造との整合性を図り検討

増田三郎議員(自由クラブ)

が分断され、地域住民は震災時に横断歩道を渡って避難するようになる。災害に強い街を目指して、災害時の対応の観点から、街づくりに対する見解を問う。

大震災での学校の対応

今回の大震災の発生に際して、市立学校と教育委員

教訓とした対応見直し どう考える 保護者の安心の観点で見直し図る

守屋貴子議員(民主・連合)

子どもを学校から出さずに安全を確保して欲しいというのが保護者の意見である。震災を教訓とした対応の見直しについてどう考えるか。 答 各校はそれぞれ策定したマニュアルに沿って対応し、けが人等の発生もなかったが、学校により初動判断が分かれたり、教育委員会と学校との間の通信手段の確保等、課題も明らかとなった。教育委員会としては、保護者の安心の観点から、子どもの確実な引き渡し、家庭と学校との情報共有の充実等、見直しを図る。

学校での防災教育

岩手県の釜石中学校では、防災教育により成果を上げていく。本市での防災

震災を受け今後の見直しは 具体性ある訓練等に見直しを図る

浅野さち議員(公明党)

通しについて問う。また、小中学校にモデル校を立ち上げて防災教育プロジェクトを進める考えはないか。 答 学校での防災教育の取り組みは、従来の日常的な防災教育の推進を図りたい。

給食食材の放射線物質検査

市独自で調査しデータ公表すべき 各校の安全性の検証 今後研究

秋本のり子議員(社民・市民)

放射能汚染問題は、収束の見込みが立たず、子どもへの影響を心配する。今後、全小中学校と保育園に

表すべきと考えるがどうか。 答 現在、定点測定6地点で行っている。より精度の高い測定器を発注したが、高価なため、全施設への配置は現状では難しい。また、給食食材の調査は、各校で食材を発注するため、学校ごとの安全性の検証は現時点で困難であるが、今後、方策について研究を進める。